

40代最後の年に技術士2次試験に合格し、約2年半が過ぎました。いま振り返ると、私が合格出来たのは2人の「師」の存在があったからだと思っています。最初の「師」は、4歳から17歳までの間、バイオリンを教えて頂いたH.M氏です。まわりと比較して不器用だった私に、“反復練習で完成度を高めていく大切さ”を教えてくださいました。2次試験の勉強の時もこの教えが生かされたと感じています。先生は95歳になります。ご健在で時々お会いしてお話ができることがとても嬉しく思います。現在、私はボランティアで名寄市ジュニアオーケストラのバイオリン講師として、今でも街の子たちと楽しく音楽活動に携わることができています。

もう一人の「師」は、大学ゼミの担当教授だった、M.M氏【北海道工業大学(現：北海道科学大学)名誉教授】です。在学当時は熱意ある指導を受けました。卒業後は気さくに接してくださり、仕事や人生の悩みについても色々話を聞いて頂きました。

2次試験にむけた勉強の際も、先生からの一言二言が、試験勉強に向かう私の“姿勢”に大きく影響しました。また2次試験に合格した時は自分自身も大変嬉しかったのですが、先生には他の誰よりも喜んで頂き「必死に勉強してよかった!」と心底思いました。

私は50代になり“次の世代の人”を育てて行かなくてはならない年齢になりました。いつか私自身も「師」となれるように、継続研鑽と人材育成を続けながら、今後は総合技術監理部門にもチャレンジしていきたいと思っています。

石田 十羽完 (いしだ そうがん)

●建設部門(道路)

勤務先

株式会社三洋コンサルタント
(名寄市)



➡次号は、加藤裕之さん(建設部門)

私は、函館近郊で生まれ、小学校以降は札幌で暮らしました。札幌暮らしが長いですが、道外暮らしも経験済みです。大学・大学院は早稲田大学で、応用数理を専攻しておりました。数学の産業への応用を学ぶ場として新設された学科であり、数学が好きな私にとっては楽しく、また東京生活は推し活イベントに気軽に行くことができ、とても充実していました。もともと数学系ですが、機械の勉強をし、今はエネルギー業界で電気の勉強をし、エネルギー管理士(電気)、第3種電気主任技術者を取得しました。転職を経験したことにより、エンジンの故障調査、電気回路設計、電気主任技術者業務など、幅広い専門性を習得できたと思います。

私が技術士取得を目指したきっかけについて話そうと思います。今も同じ傾向かはわかりませんが、就職活動においては数学系の専攻の人は不利であり、とある人気企業を受験した際に面接官に「数学系の人は文系と同じ技術力だ」と言われたのが今も脳裏に残っています。私は、数学系の人々が技術士や電気主任技術者を取得すれば、その資格を持っていない機械系や電気系の人よりは技術力があると言えるだろうと考えました。反骨精神が難関資格へのチャレンジに繋がったといえます。この文章を人事権のある方がもし読んでおりましたら、決して数学系の人々が技術力がないのではなく、継続研鑽ができるか否かが技術力の有無につながるということを念頭に入れ、数学系の人への固定観念を捨てて頂けたら幸いです。これから技術士を目指す方、問題難易度は高いですが、諦めずに継続することが合格の近道だと思いますので、頑張ってくださいと思います。

西山 貴久 (にしやま たかひさ)

●機械部門(機構・ダイナミクス制御)

勤務先

NTT アノードエナジー株式会社



➡次号は、吉田ちあきさん(建設部門)